

二十歳の誓い

芸術において、私が作るものは私にしか作れないもの。

私はとても多趣味な人間です。最近は専ら音楽に専念していますが、詩を書くことも料理も好きで、ビリヤードやチェス。オシャレをしたり、たまにはこんなふうメイクも。アスレチックも大好きで、ゲーム、裁縫 編み物 読書..... 西洋絵画も好きなので美術館にもよく行きます。

子供の時から好奇心は旺盛で、どんなものでも、興味さえあれば手を出しました。その延長とも言いましょうか、成長してからもなにかと”できるようにになりたい”と思うことの数が多かったように思います。私は男性として生まれましたが、女性的なイメージのある趣味も取り入れていく過程で、性別の枠に囚われないような生き方や考え方もできるようになりました。

ある日学校に手作りクッキーをもっていくと、『女子みたいだ』とからかわれたことがありましたが、後から、男性のパティシエだっでごまんということを知りました。これは『世間一般』や『常識的』などといったよく聞かされる言葉の狭さを知った瞬間だったかもしれません。

そして次第に、『一般的ではない』自分は特に間違っただけでいいのだと理解するようになり、自身を肯定し、自らの芯をしっかりと持った人間を目指すようになっていきました。

多い趣味だっただけ『全て中途半端だ』と言われてしまったら、何も言い返すことはできません。ですがどれも中途半端のうちに辞めてしまったわけでないことは、はっきりとっておきます。確かに私が恵まれた環境にあったことは間違いありませんが、これらは私が、できるようにになりたいと努力し、時には寝る間も惜しんで練習し、習得したものだからです。そしてそれらから得られた経験や感覚すべてが、私の価値観や創作活動に生きています。自分にしかできないこととして、私は芸術を選んだのかもかもしれません。

私は考えます。人間には誰しも必ず、その人にしかできないことがあるはずだ、と。私が作るものは、私にしか作れないもの。私は芸術にそれを見出しましたが、福祉、政治、物作り、教育、様々な場面で、個々の”得意”や”好き”は活かされるはずで。遅かれ早かれ、それを見つけるために、我々は人生に挑まねばなりません。

いつか死の床についた時。100歳の私は、まだハタチだった青い私に何を伝えたがるでしょうか。「もっとやれたら」と叱るでしょうか。それとも、「お前はそのままがいい」と笑顔で背中を押すでしょうか。老いた私は、若い私を恨んでいるでしょうか。絶対に彼の、老いた自分の首は絞めないことを、私の二十歳の誓いとしていたいと思います。ありがとうございました。

令和3年1月11日 新成人代表 會田 天

二十歳の誓い

7年前の今日、私は京都市少年合唱団の団員として、このステージに立ちました。約八千人の新成人の方の前で、自分の歌声はこんなにも多くの人に届いているのだといった瞬間が楽しくて仕方がなかったことを今でも鮮明に覚えています。

私が高校生のとき、熊本地震が発生しました。毎日ニュースで被害の様子を見て、この京都から何か少しでも支援できないだろうかと考え、合唱団の仲間とチャリティーコンサートを企画・実行し、「歌うこと」で支援金を集める活動をしました。このことがきっかけで、大学生になってからも、地域貢献活動の一環としてコンサートを開催するなど、

私にとって音楽とは、人と人とのつながりを作り出してくれ、自分自身を表現することができるとても大切なものでした。

しかし、環境は一変しました。コロナウイルスの流行によってです。歌を通して自分を表現することが大好きだった私は、一切の表現の場を無くしてしまっただけです。学生生活をかけて積み上げてきた経験が意味のないものになったといった錯覚に陥りました。誰とも直接会えない、仲間と歌えない、自分の思い描いていた未来が叶わない現状に八方塞がり、すごく苦しみました。

そんな時、合唱団時代からの友人が、ベートーベン第九の演奏をオーケストラと合唱一緒にリモート演奏している投稿に参加し、その動画が Twitter を通して広まり、メディアで特集されているのを見ました。彼らの「前に進むんだ」といった姿に感動を覚えました。そして、コロナによる新しいリモートという発信の形は、たくさんの人の目に止まる可能性や、より多くの人と繋がることのできる可能性に満ちていることを知り、本当に勇気づけられました。

コロナ期間を通して私たちにはできなくなったことがたくさんあります。しかし、逆にコロナ期間であるからこそ、気付けたこと出来るようにことがあります。どんな時にでも、ただ失望するだけではなく、現状を受け入れて未来へと進んでいける、常に、逆の視点の発想を持った大人になりたい、と考えています。そしてこれまで歌を通して得た経験を生かして、社会や誰かのために良い影響を与えられる大人になりたいです。このことを、私の「二十歳の誓い」とさせていただきます。

令和3年1月11日 新成人代表 堤 香乃

二十歳の誓い

今自分のこれまでの人生を振り返ると、いろんなことからずっと逃げてきました。

足が遅いことが嫌で大文字駅伝の練習には一度も参加せず、学級委員は選ばれないことが怖くなかなか立候補できず、部活も真剣にやっても勝てないのが恥ずかしく、ずっと逃げてきました。

小学校当時の私は学校のことは後回しにして塾を中心にする生活でしたので、学校の先生には目を付けられていました。子どもながらに「何のための学校やねん、日本の教育変えてやる。」と粋がって「せや、政治家になれば教育を変えられる！」と思い、総理大臣を目指しました。しかし親が「無理無理無理、うちの家系では絶対に無理！」この一言で夢はすぐに散ってしまいました。次に国会議員を目指すことにしました。しかし、尊敬する優秀な友人も政治家志望だったのです。「彼には選挙で勝てない。無理だ。」私はここでも逃げる選択をしました。

そんな私でしたが、今は小学校の教員になって現場から教育を変えて行こうという夢を持っています。このきっかけも小学校の時で、ボランティア委員会に入ったことでした。高齢者施設を訪問するために、トーンチャイムという楽器を練習するのですが、ひとりが楽器を鳴らす回数はほんのわずかで、「何がおもしろいねん」「ほかのことした方がええやろ」と思っていました。しかし、いざ行ってみると考え方が変わりました。ちょっと鳴らただけなのに、高齢者の方は一緒に歌ってくれるしとても喜んでくれるのです。「人の役に立って超気持ちええっ！」この小学生の時の記憶が人生の方向を決めてくれました。

20年間、逃げながらここまで来た私が「決意を言葉にしたい！」と思い、自ら応募して今このステージに立っています。

私が目指している教員というのは、まっすぐな子どもを相手にする仕事です。私のように小学校時代の小さなきっかけで人生の方向が決まることもあります。一人一人の子どもを徹底的に大切にしない逃げない教員になれるよう励むことを誓います。

令和3年1月11日 新成人代表 西田 光

二十歳の誓い

私の両親は高校受験の時に離婚しました。母と私は学費を工面するため、奨学金・助成金などの書類を集める毎日でした。この時、学費って半端ない、受験のお金ってなんでこんなにかかるん？と肌身で感じましたが、一人親のためのたくさんのサポートがあることも知ることが出来ました。私も負けていけない！とめっちゃくちゃ勉強しました。自分の部屋が無いのでテレビがつけっぱなしのリビングで、弟はラップ、妹はダンスをする中、黙々と勉強したのを思い出します。おかげで集中力を身につけることができ、思春期のこの経験によって一回り強くなれた気がします。

もともと勉強が好きではなかった私ですが、中学の時の担任の先生が「めっちゃノート取るんがうまい」とほめてくれたことでなぜかやる気が出て、独学で勉強することがちょっと面白いかも、と思えたのです。勉強だけじゃなくて、思わぬことでやる気がでたり、興味が湧いたりすることってあると思います。その瞬間って結構選択肢が広がる時なのかなと、感じました。先生に感謝です。

今は管理栄養士になるために日々勉強しています。決め手になったのは、高校の時にサッカー部のマネジャーをしていたのですが、体を大きくしたいのにどれだけ食べても体重が減ってしまう、その状況を見て、選手を支える栄養士になりたいと思いました。今はスポーツに限らず、どのフィールドでも活躍できるような管理栄養士になりたいです。きっかけをくれたサッカー部のみんなに感謝しています。

私は、たくさんの人の支えがあって、たまたま運よく大学に通うことができ、そして将来の夢について考えることができていることだと思ったり、感謝すべきことだと思ったり。そして、新成人としてこれまでの経験を活かし、つなげるとともに、これからを楽しみにしたいと思います。このことを二十歳の誓いとさせていただきます。

令和3年1月11日 新成人代表 高山 花恋

二十歳の誓い

幼い頃、祖父は私をバイクに乗せて京都市内の様々なところへ連れ出してくれました。嵐山の竹林、清水寺、近所の銭湯。祖父は人と喋るのが大好きでベビーカーに乗った赤ちゃんから杖をつくおじいさんまで目が合えば楽しそうに話しかける人でした。そんな祖父を隣で見て育った私も人と関わるのが大好きです。

中学の三者面談の時、私は普通科では伸ばすことの出来ない領域を学びたいと思い、新しく開校したばかりの京都工学院高校に行くことを決めました。人と関わるのが好きな私にとって高校でのグループワーク学習は楽しいもので、宇宙航空研究開発機構 JAXA と提携した課題解決型学習をする授業が特に面白かったです。JAXA が実際に抱えている課題に生徒がグループで取り組み、解決案を作り上げていく感覚がすごく楽しかったです。時に議論がなかなか進まなかったり、グループ内で考えていることが違ったりすることもあり、他の人と私とで考えるプロセスに違いがあることに気付きました。そこから、モノを作るときの発想のプロセスや仕組みについて学びたいと思ったのです。

大学生になった今、データサイエンスという分析のプロになる勉強をしています。また、小中高生に創造力を育む教育をしている企業でインターンもしています。モノづくりには闇雲に作るのと、作るための知識を持って作るのとでは完成品にもクオリティに大きな差が出てきます。私はこういった発想法のプロセスという知識に、大学で学んでいる分析の要素を交えた新しいモノづくりの考えかたを作りたいと思っています。

京都には伝統産業だけでなく任天堂のような世界で活躍する企業があります。最近では Apple や LINE のような IT 企業も京都にオフィスを置き、深くモノづくりに関わることのできる街です。いつか私はそんな京都でモノづくりに携わる人たちを支援して社会を明るくすることが私の夢です。

このことを私の二十歳の誓いとさせていただきます。

令和3年1月11日 新成人代表 原 健太

二十歳の誓い

私の誕生日は3月30日です。幼い頃からみんなよりワンテンポ遅くて、スローな私に今まで沢山の方が助けてくださいました。みんなについていくことで精一杯で、やりたいことにはほとんど自分を出すのですが、それ以外には全くの無関心で。小学生の頃は自分から何かを発言するなんてほとんどありませんでした。

そんな私が高校生の時、先生が進路を考える上で良いきっかけになるので、とプレゼン大会を勧めて下さいました。「選ばれる訳ないやん。」と思いながら撮影した動画が一次審査を通過。あっという間に二次審査を通過して、ファイナリストに選ばれてしまいました。東京で行われた大会では、「京都の町家をリノベーションして、京都の街並みを残したい」と発表しました。この大会が自信となり、ひとりでニュージーランドに行ったりもしました。

これらの体験を通して、私は沢山の人に出会うことが出来ました。彼らに共通していたことは、自分の人生について深く考えているということ。自分の経験を通して、将来の夢や自分に出来る事を考えていました。楽しいことだけではなく、社会に起きている問題を解決しようとしている姿にとっても感銘を受けました。自分に出来ることは何だろう、そう考えるようになったのも彼らのおかげです。

実は、私の家は江戸時代から瓦屋をしています。そして今、大学で建築を学んでいます。建築は人々の生活が大きく関わっています。そんな中、世界は新しい感染症によって、今までとは違ったライフスタイルを送らなければならなくなりました。実際に大学の授業でも、人々が家で過ごす時間が増えたことによって、設計するときの考え方が変化しています。

私は将来、建築はもちろん、人々がより良いライフスタイルを送れる社会を作る仕事をしたいです。そして京都で生まれ育ったことを誇りに、これからも勉学に励みます。自分のためだけではなく誰かのために出来ることを考え、人を支えることのできる大人になります。このことを私の二十歳の誓いとさせていただきます。

令和3年1月11日 新成人代表 小西 真由

二十歳の誓い

今、猛威を奮っているコロナウイルスは、私たちに多大な影響を与え続けています。私は、この長い自粛期間、目標や今自分のやっていること、そして毎日のオンライン授業や課題にも目的や意味が見えなくなっていました。考え出すとネガティブになり、1人では処理できないほどにブルーになる私が、人に会えない数ヶ月、ついには、一度に処理できるキャパを超過し、軽くパニックを起こすほどでした。思いがけず目にしたSNSによって、人と比べ、自分の限界を自分で作り上げ、理想に届かない自分に、また嫌気がさす。抜け出せない負のループ。このコロナウイルスは、私を言葉通りダメにしました。

しかし、自粛のムードが緩み、いっきに人の往来が増えると、人は繋がります。その波に乗って会いに行ったその人は、こう言ってくれました。「弱点をプラマイ0にする努力より、長所をプラス10にも100にもする努力の方がいいんじゃない?」。私は、幼い頃から、ほんの小さな疑問にはじまり、さまざまな問題意識を持ってきました。持ち前の観察眼で、見たくないもの、知りたくないこと、意味を持たないこと、それに疑問を抱き、重く受け取ってしまう。これは、ずっと私の短所であり、長所でもありました。それに気づいた私は、日々湧き上がる疑問に対して、考えたり、調べたり、追求することに長けているんだってことにやっと気づくことができました。

今、このコロナのなかで、実現したい未来があります。私は、10年以上ガールスカウトに所属し、今は、リーダーとして小学校低学年、高校生と活動しています。でも、いざ人の上に立つと、私の言葉で、仕草や行動で、傷つく人がいないかと正直怖いのです。しかし、相手の気持ちを思い、上から目線ではなく、共に学び、支え合える「ヨコでつながる組織、社会の実現」が「私の理想」です。人に対する感受性が強い分、傷つきやすい人の支えになれる自分でありたいです。そのために生涯学び、知ること、そして自分自身から変わることに、変えていくことが今の私が夢に見る未来です。このことを、私の二十歳の誓いとさせていただきます。

令和3年1月11日 新成人代表 島津 花野

二十歳の誓い

私は将来、人工知能の研究に携わりたいと考えています。

私は小さい頃から京都の文化や神社仏閣に興味があり、中学生の時には京都のジュニア観光大使を務めさせていただきました。

そんな私が中学3年生の時、京都市青少年科学センターで開かれたプログラミング教室に参加したことがきっかけで情報工学に興味を持つようになりました。その講座は、パソコンで数値などを設定して、ロボットの車がコース通りに走るようにするというものでした。パソコンすらあまり触ったことがなかった私でしたが、数値によってロボットの動きがどのように変わるのか想像するのは楽しかったですし、何よりもロボットが自分の考えた通りに動いたり、逆にプログラミングが間違っていると予想外の動きをするのが非常に興味深かったです。

実際に情報工学の分野で人工知能の研究をしたいと思い始めたのは、大学受験を前に進路を考えた時でした。母が専業主婦だったせいか、私は将来自分が仕事をしながら家事と育児を両立している姿を全く想像する事が出来ませんでした。でも、せっかく学生時代に得た知識を活かさないまま家庭に入るのは嫌だし、夢を叶えるために家族を作ることを諦めるのも違う。それならどちらかを選ばなくて済むように、働く女性を助けてくれるような人工知能があれば良いのに、と思うようになったのが、私が情報工学分野に進むことを決意した理由でした。

現在情報工学分野で学ぶ学生は男性がほとんどですが、女性が自分たちの視点で研究を始めたら、待機児童や介護問題など様々な分野で女性を助ける人工知能が生まれてくるのではないかと思います。将来実際に家庭と仕事を両立する立場になった私が、この研究に加われたとしたら、それは大きな強みになるのではないかと考えています。

女性の目線から、人工知能の力を借りて、女性がより活躍しやすい環境を作りたい。このことを「二十歳の誓い」とさせていただきます。

令和3年1月11日 新成人代表 平居 珠実